会 議 報 告 書	
会議名	第3回(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会
日 時	平成21年12月16日(水)午後7時00分~8時50分
場所	市役所 2階 本館会議室
出席者	市 只木秘書政策室長、鈴木政策班長 政策班 赤羽主幹、和田副主幹、杉山 策定委員

1 開 会(政策班 和田副主幹) 19:00

開会及び資料の確認

- 2 あいさつ(副会長)
- 3 検討事項(進行:副会長)
- ○矢板市「現状と将来の見通し」「良いところ、悪いところ」**について**
- 〇市民アンケートの結果について(事務局)

アンケートについて説明したのち、2つのグループに分かれ前回からのワークショップ の続きを行う。そのまとめ結果について、発表していただきたい。

(アンケート結果について説明 特に目立った変化等)

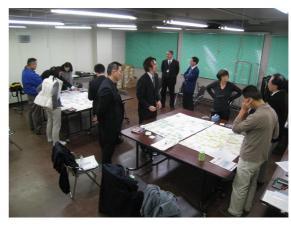
- ・平成17年度とほぼ同様の内容で行った。比べ今の傾向を図る。前回は小泉劇場の時である。
- ・問7仕事の関係で5年以内に転出予定の方が増えた。仕事の関係か?
- ・問12 51分野について重要度と満足度について回答いただいた。
- ・重要と回答いただいたところは、1 番、2 番、健康・医療関係 2 8 番、ゴミ関係、 2 9 番、3 0 番、3 1 番、消防・防災・防犯関係 4 7 番 就労場所 との回答が多かった。
- ・満足度が高いものは、1番、健康施策関係、27番、ゴミ関係、42番、上水道関係、48番、市の窓口サービス関係であった。
- ・満足度について、前回と比較した。下がったものが9分野、残りの42分野が前回と同様及び上がった。
- ・主に、下がったところは、2番の地域医療関係、30番の消防・救急関係、34番の公園、緑地関係であった。
- ・主に、上がったところは、5番、6番、保育、児童館、学童保育の分野、と18番の図書館関係、であった。
- ・今回から中学生に対してもアンケートを実施した。
- ・問3 これから矢板に住みたいかであるが、わからないという回答が多かった。
- 問6 スーパー、モール、お店等が欲しいという回答が多かった。
- ・問7 矢板市が誇れるものであるが、豊かな自然と農作物という回答が多かった。次に 花火大会等の市民力である。

- ・問8 地域活動への参加率であるが、していると時々しているを合わせても30%に満たない結果となった。している子どものUターン率が高いという他団体の統計結果もあり、子どもと地域の関わりということが今後の課題の一つといえるのではないか。
- 問10はフリーな意見である。

19:30

(2つのテーマについて、2つのグループに分かれ、付箋紙によりまとめ作業)





20:10

【現状と将来の見とおし】(委員)

- ・教育が薄いので付け足した。矢板市は学力テストで平均を少し下回った。学力の低下があるのかな。非常に今均一化と画一化しているが、学力のあり方、山型がM字型になった。できる子、できない子がはっきりしている。過保護、無関心 身近であるが、サタデースクールなども挙げたが、国の制約も強いので手を出しずらい。
- ・どこを切り口でいくか、環境都市宣言などをしたので、環境から考えてみると、特に自然環境はいいものが多くある。すぐれた自然環境を活かして、売りにしている姿勢が足らないのではないか。たとえば、自然環境を活かした農業・観光・産業を振興することが必要ではないか。
- ・こういった環境を視点として色々と組み合わせるときに、仕組み作りが難しい。人材がいないわけではないが、結びつくる仕組みがない。佐野市には、ボランティアセンターがある。このような人を結びつけるような仕組みが必要。全体を繋いでいく。
- ・産業、ミシン目のとおり、工業、農業、等でわけて考えたが、それぞれでは、特徴が弱いのではないか。ただ今6次、産業といわれている。組み合わせ、かけ合わせていくことが大切。道の駅もできるし、農商工連携の仕組み。やはりそれを行っていくのにも繋げていく仕組みづくりが大切。
- ・アンケートでも関心が高かった医療の分野であるが、人材、専門職が必要なので、独自の取組はやりづらい。介護予防、等、高齢者が生きがいをもって暮らせる仕組みづくりが必要。
- ・インフラは、街中は不満がある部分はあるが、矢板市と他を結びつける道路網は整備されている。そのため、矢板に魅力がないと外にいってしまう。

【良いところ】(委員)

- ・高原山、私たちも知らなかったが、大学生のオリエンテーリングや自転車などで使っている。これをもっと市内外にPRしていく必要がある。
- フットサルパークもあるので、サッカーが盛んであるというPRも必要。
- ・教育分野では、小中一貫校もすすんでいる。また使われなくなった校舎の利用を考えていかなくてはいけない。市内には高校も多いので、市外から多くくるため、日勤の時間帯は人口が多いのでそこを活かしていく。
- ・人については、実直、素朴、近所づきあいがまだ残っている街である古き良き田舎であ る。
- ・インフラは、JR、国道、高速などすぐれている要素が多いが活かしていない。これを もっと活かしていく。
- ・産業では、亀山には負けるが、シャープさん城下町の要素が強い、これを活かしていければよい。
- ・観光では、ゴルフ場が多い。丸山茂樹さんの関係のゴルフ場もある。泊まれる場所が増えればよいのではないか。
- ・ゴミの分野では、矢板市は良い方のランクにあるため、これを活かしてイメージアップ につなげていければよいのではないか。

【悪いところ】(委員)

- 話をしていて、いろいろなデメリットがあるということを共有できた。
- ・アンケートで出てきた結果と、皆で話していた結果との方向性がだいたい一致していた。
- ・皆で出していった意見で不足している部分は、医療関係であった。
- ・これからの充実を望むといったところの医療福祉関係、雇用の場といった産業と教育関係がアンケートの上位にあがっていたと思うが、それらは、確実に意見としてもでてきた。
- しかしながら、改善できるところとできないところがあると思う。
- ・1番(医療)、2番(産業)のところは、正攻法では解決は、むずかしい。なるべくコストをかけず工夫をしなくてはいけない部分である。
- ・教育の分野では矢板市の特徴がはっきり見えないのではないかという意見がでた。
- ・医療福祉や教育、環境等のボランティアのベースである「人」がどのように係わりあえるか、が基本であると思うが、気質や、経済状況、環境、まちづくりに関する関心の低さがベースにあるので、そこをうまく活性化していかないと、ボランティア、NPOにしても活性化は難しいのではないか。
- ・悪いと言いながらも、期待ができる分野として、環境とか自然の資源の利用などがあるが、矢板に住んでいる人は、重要でないと思っていることが、外から見ればありがたい存在であるということがある。
- ・例えば、外から来たオリエンテーリング、自転車、をやっている人がいるということ。 一部の人は知っているが、大多数の人はしっていない。外から来た人がもっと利用できる 場所がいっぱいあるということを発信していく必要がある。









今後の進め方(事務局)

20:30

- ・どのように皆様の意見を反映させていくのか、ということであるが、配った資料の足利 市のように、提言書というような形で反映していければいいと思う。
- ・項目別に分別し、意見を集約し、まとめていく際の参考にしていただきたい。3月をめどに一度まとめていきたい。

今回は、現状と将来の展望をまとめていただいたが、特に矢板市の問題、環境や高齢者の 問題などがでてきた。

- ・いいところ、わるいところを検討していただいたが、よいところは、これから市内外に 発信していくところ、わるいところは、重点的に改良してかなくてはいけないところであ る。
- ・これで、ファーストステップのところは、終わったわけであるが、セカンドステップの 矢板市の将来像のところを今後は進めていきたい。
- ・一言でいうと、10年後こんな市になってほしいというところを決めていきたい。
- ・皆様のやっていただいた作業を現計画で見てみるとはじめから35ページのところまでの内容のところを話合えたと思う。
- ・今後は、35ページ以降のところ、また、表紙のところにある、「人・郷土・産業が調和した つつじの郷・やいた 」のキーワードのところを検討していきたい。

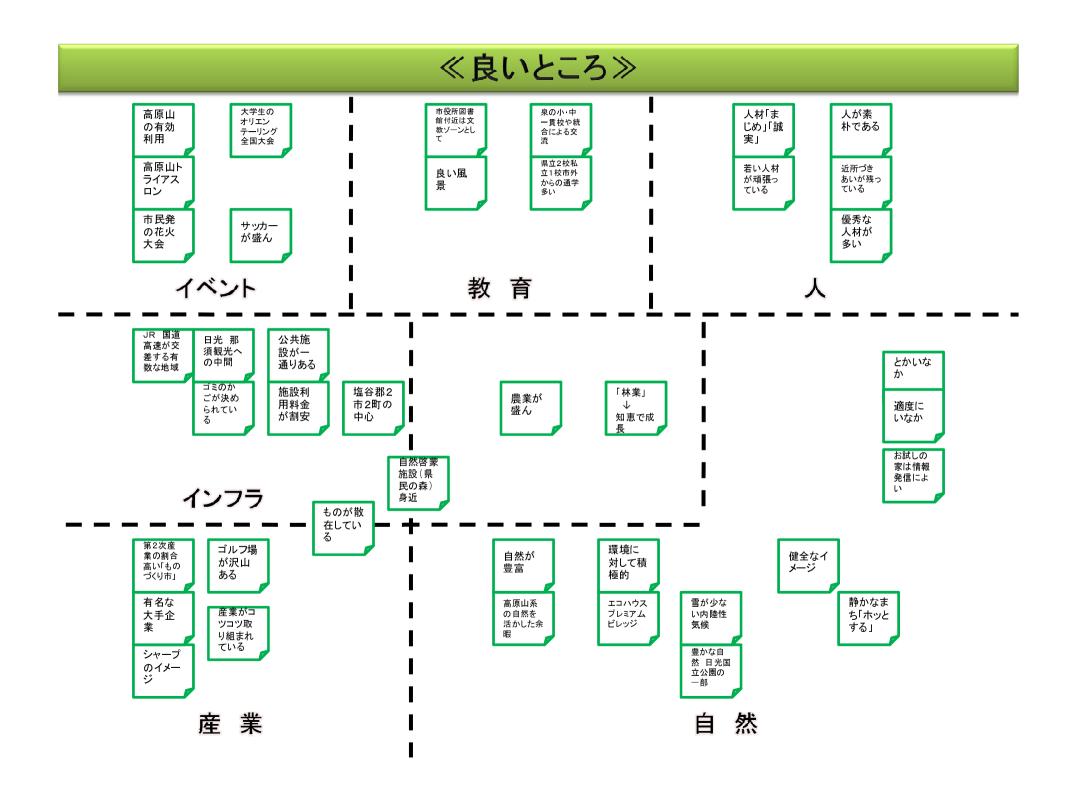
次回の日程の確認 平成22年1月20日(水)

また、3回目までの一区切りとして、皆様の活動の様子をホームページ等で公開していきたいと思っているがよろしいか。

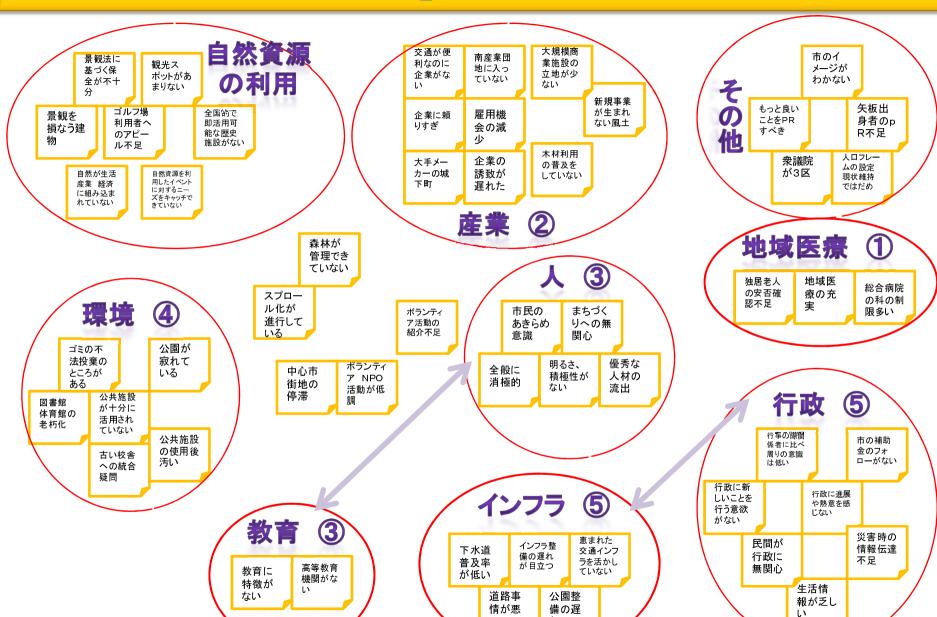
 \rightarrow \uparrow

副会長 〆の挨拶

8 閉会 20:50



≪悪いところ≫



れ

LI

